

保護者各位

園だより

平成30年11月9日  
城南幼稚園・早良幼稚園  
園長 小林裕子

菊花の候、保護者の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。先日の親子遠足におかれましては、皆様にご参加いただき、ご協力をたまわりましたおかげさまで、楽しいひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

さて、以前園だよりでもお伝えいたしましたが、昨年より、坂田和子先生（福岡女学院大学教授）にご指導いただき、子どもたちの「育ち」を支える環境づくりに取り組んでいます。

まずは2歳児からと、こすもす組（城南）・つくし組（早良）の部屋のレイアウト（コーナーの場所、家具の配置等）、おもちゃの種類、おもちゃの置き方・出し方など、実際に園においていただき、ご助言いただきました。一番大きく変えたのは、今まで既製のおもちゃを多く使っていましたが、それだと遊び方が決まってしまう、創造性を育んだり、遊びが発展していくのに適さないということを学びました。「卵」「おにぎり」「ハンバーグ」「カレー」の形をしたおもちゃを無くして、いろいろな色の「お手玉」や、「フェルト」を丸や四角の形に縫って部屋に置いてみたところ、2歳児の子どもたちの遊びが劇的な変化を見せました。

フェルトでお手玉をはさんでハンバーグにしたり、海苔巻きにしたりと、「もの」を様々な「もの」に見立てて遊びだしました。それが翌日になると、また違うものに見立て、子ども同士のやり取りが始まり、ごっこあそびに発展していきました。スポンジなどを小さく切って出してみると、ピザのトッピングにしたり、チェーンのうどんの薬味にしたりと、2歳児でもどんどん遊びを変化させ、遊びを楽しむ姿が見られました。そして、「もの」を介して子ども同士の会話のやりとりが始まりました。

2歳児の特徴である一人遊びから二人以上の遊びへと変化し、人間関係を学ぶ場が自然と発生していたことに驚き、幼児教育における環境の大切さを改めて再認識する機会を頂きました。

2歳児の環境づくりを通して学んだことを、他の学年にも活かしていきたいと思い、それぞれの発達に即したおもちゃ作りに取り掛かっているところです。しかし、私どもだけでは、作る時間がなかなか取れず、早く子どもたちの手元に届けたくても、ままなりません。もしよろしければ、おもちゃ作りの作成のご協力をお願いいたします。特に作成会などは設けませんが、お申し出いただければ、ありがたく思います。勝手なお願いではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



城南 こすもす組



早良 つくし組